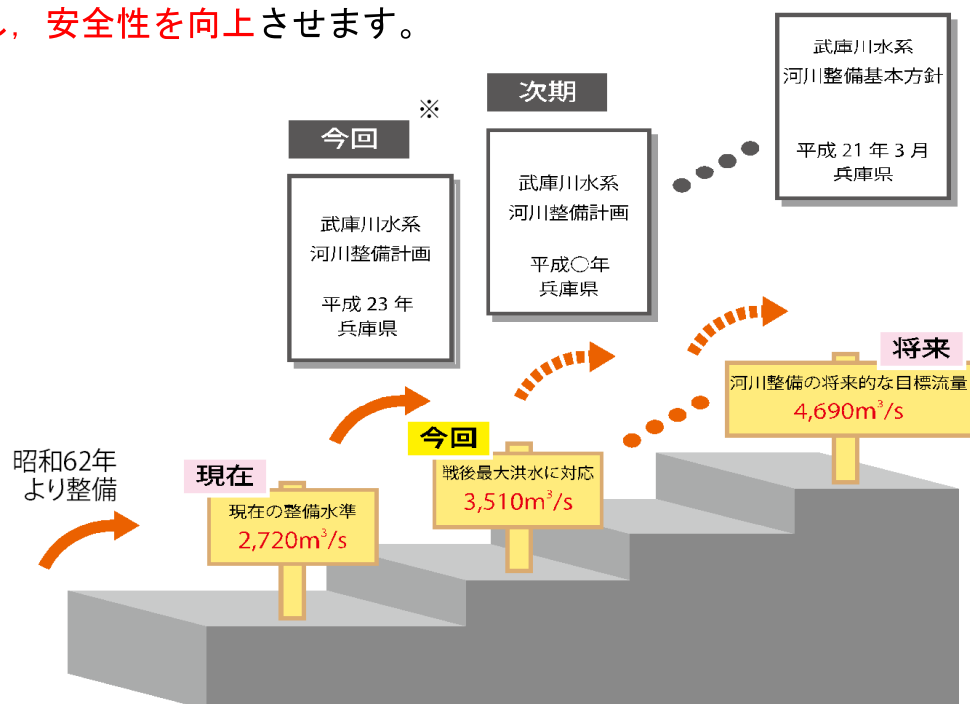


河川整備計画の基本的な考え方

1

1. 段階的な河川整備

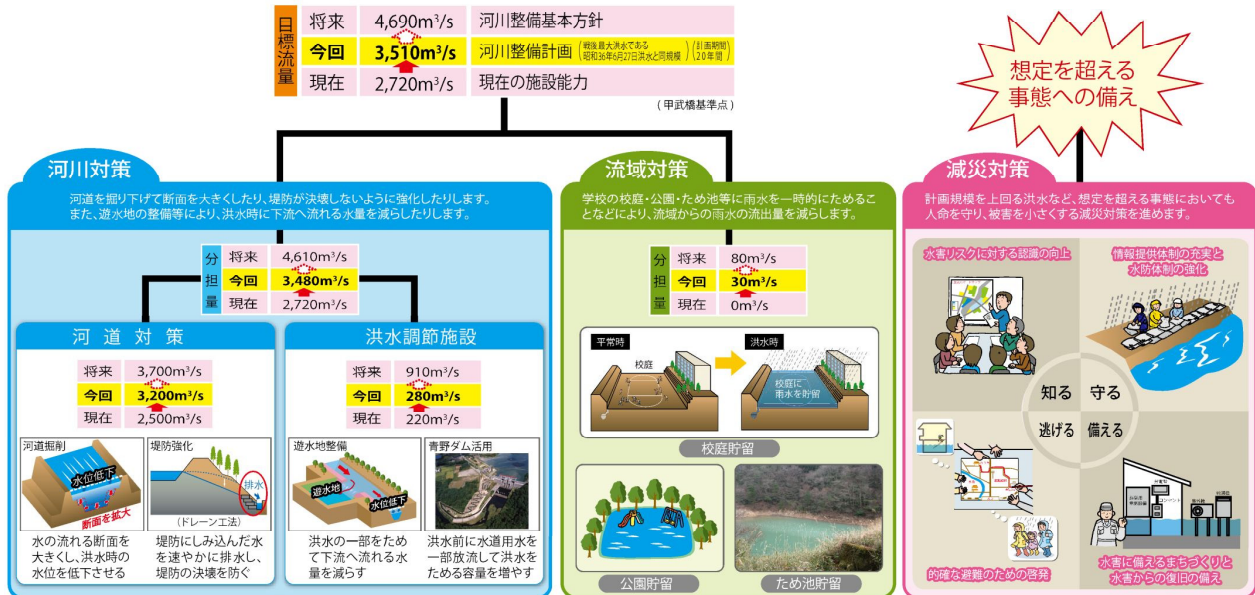
河川整備の将来的な目標流量は、河川整備基本方針で定めています。この目標を達成するには、長い年月が必要なため、**段階的に河川整備計画を策定し、安全性を向上**させます。



2

2. 武庫川における「総合的な治水対策」の概要

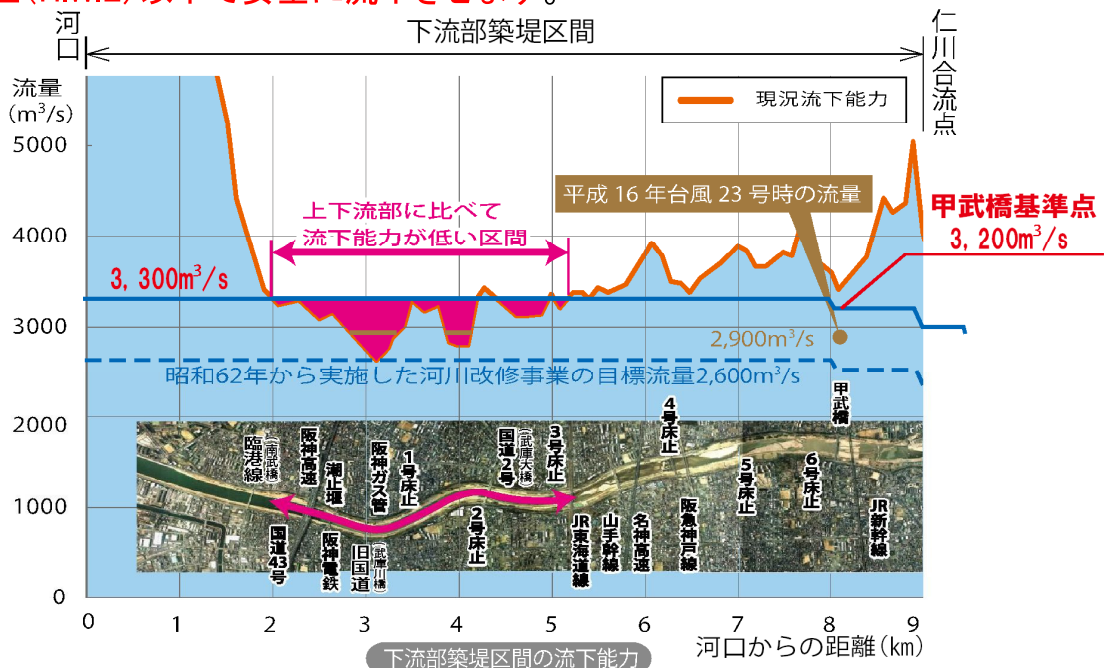
流域全体で防災力の向上をめざし、**河川対策**、**流域対策**、**減災対策**を3本柱とする「総合的な治水対策」を進めます。



3

3. 下流部築堤区間における河川対策

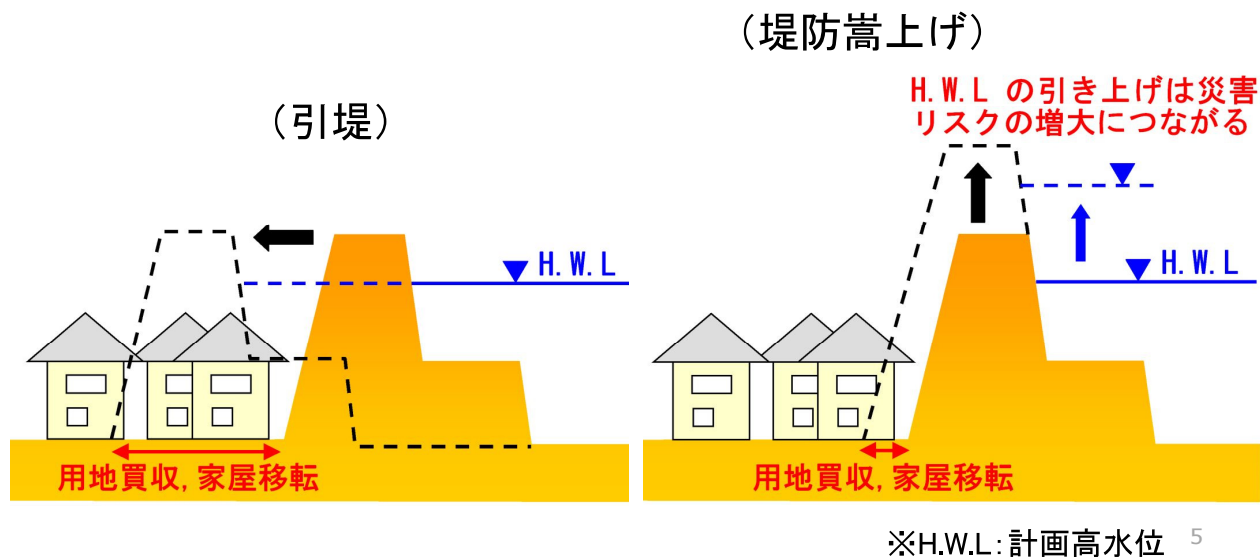
上下流部に比べて流下能力が低い臨港線(南武橋)～JR東海道線の区間において、戦後最大の洪水である昭和36年6月27日と同規模の洪水※を計画高水位(H.W.L)以下で安全に流下させます。



※上流の青野ダム等で洪水調節した後の河道への配分流量3,200m³/s(甲武橋基準点)⁴

4. 河道掘削の考え方①

密集市街地を流れる下流部築堤区間は天井川となっており、引堤や堤防嵩上げによる対策は社会的・経済的に大きな影響があります。また、堤防嵩上げは災害リスクを増大させることにつながります。これらのことから引堤や堤防嵩上げは実施しません。

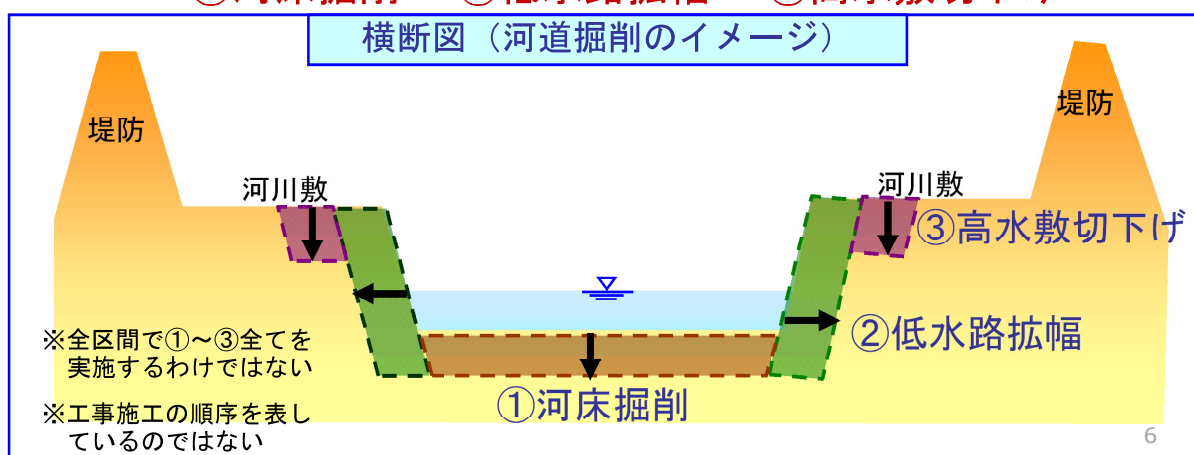


5. 河道掘削の考え方②

- ◆ 下流部築堤区間は、ひとたび堤防が決壊すると甚大な被害が想定されます。このことから、早期かつ着実に整備効果が発揮できる「河道掘削」を選定しました。
- ◆ 河道掘削の優先順位は、堤防の安全性を第一に考え、以下の順序で計画しました。

<河道掘削>

- ①河床掘削 ②低水路拡幅 ③高水敷切下げ



6. 計画河床の設定

■河床掘削の設定

国道43号橋梁の基礎が突出しない深さまでの掘削が限界

■河床掘削により影響を受ける横断工作物の取扱い

①橋梁

橋梁の補強又は改築の方法については橋梁管理者と協議，調整を行った上で実施

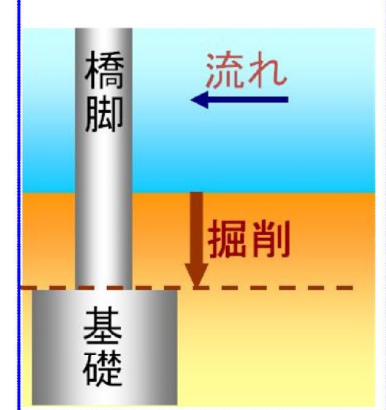
②潮止堰

周辺の地下水の利用状況等を勘察し適切に対応することを前提に撤去

③床止工

適切な洗掘防止対策を行うとともに，②と同様の対応を前提に撤去または改築

河床掘削のイメージ
(国道43号橋脚部)

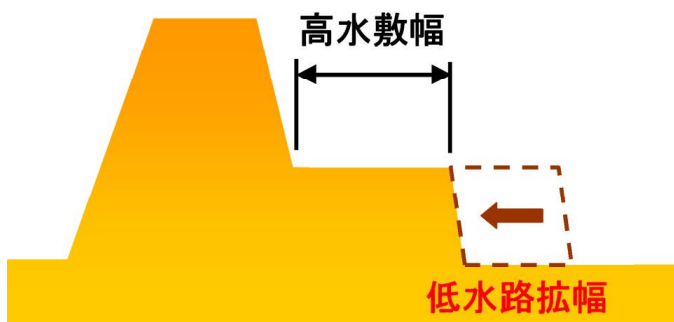


7

7. 低水路拡幅，高水敷切下げの考え方

■低水路拡幅の考え方

洪水による侵食や洗掘に対する堤防の安全性を確保するため，必要となる高水敷幅を限度として必要な低水路拡幅を実施します。



区間	高水敷の最小幅
河口～1.5km	20m
1.5km～ 仁川合流付近	30m

※左岸側高水敷に流域下水道管渠が埋設されている区間では，管渠に影響のない範囲で必要な低水路拡幅を実施

■高水敷切下げの考え方

河床掘削と低水路拡幅を優先的に実施し，堤防に近い高水敷の切下げを必要最小限に抑えます。

8

8. 河川区域内樹木の取扱い

『河川区域内における樹木の伐採・植樹基準』（平成10年6月）

樹木が治水上等の支障となると認められる場合は、樹木の有する治水機能及び環境機能に配慮しつつ、支障の大きなものから順次伐採することを基本とする。

樹木が治水上の支障となる理由

- ・ 洪水時に水位上昇をもたらす
- ・ 堤防沿いに高速流が発生する
- ・ 堤防・護岸等の河川管理施設に根が悪影響を及ぼす など



武庫川における河川区域内樹木の取扱い

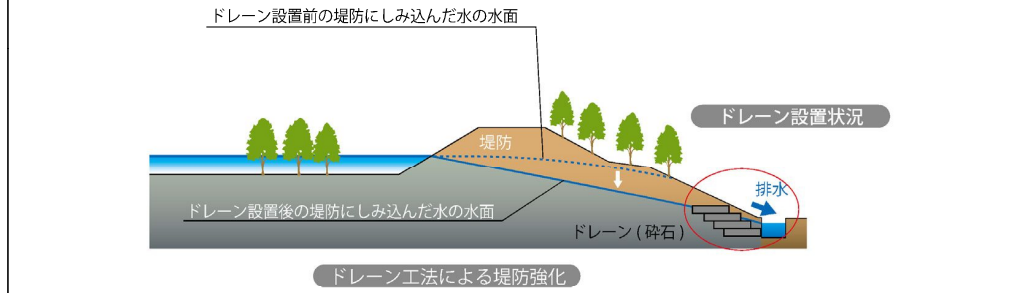
- ・ 治水上等の支障となる河川区域内樹木については、伐採することを基本とする。
- ・ 一方、河川区域内樹木の一部は古くから生育しており、武庫川の景観を特徴づけ、地域住民にも親しまれていることから、治水上等の支障とならない範囲でこれら樹木の保全について配慮する。

9

【参考】 堤防強化(浸透対策, 侵食対策)

■ 浸透対策【ドレーン工法】のイメージ

洪水時に堤防にしみこんだ水を速やかに排水し、堤防の崩壊を防ぎます。



■ 侵食対策【護岸工】のイメージ

洪水時の水の流れから堤防の侵食を防止するため、護岸を設置します。

